

1. 調査報告概要表

作成日 2010年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200247
法人名	特定非営利活動法人 じゃんけんぽん
事業所名	グループホーム じゃんけんぽん 伊香保
所在地	渋川市伊香保町伊香保369-6 (電 話) 0279-30-4177

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年11月27日

【情報提供票より】(21年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.9	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨及び木造スレート葺き木造 2 階建ての 1・2 階部分
------	------------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,350 円(1日)	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 200 円	昼食 250 円	
	夕食 250 円	おやつ 50 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(11月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 758 歳	最高 103 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	原沢医院・太田歯科医院・三剛歯科医院・
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域とは防災・祭り・運動会参加等を通じて連携が取れているホームである。また、職員と利用者とのホーム外活動への意気込みが感じられる。それは地域の研修に参加したり、町民運動会への観戦や認知症への理解を地域住民に啓発するための活動を行なっていることから単なる外出に終わらない工夫がある。管理者は着任間もないが、介護に対する思いは深く、働きやすい職場づくりと人間関係の構築に努め、職員同士も理念に基づいたケアの実践確認を行なっている。協力医療機関等と連携を図り、24時間継続した医療を受けられる支援体制も整備されている。利用者の地域生活の継続支援や地域との交流を大切にしたい運営を心掛けており、日頃から近隣・地域住民との交流に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった、運営推進会議を活かした取り組みでは、開催案内は参加しやすいように工夫された。開催案内を市役所に届けに行き、ご家族全員に請求書と一緒に案内を通知している。定期的な開催と行政職員の毎回の出席はなく、改善されていない。災害対策では年2回の避難訓練を行い、そのうちの1回は消防署の立会いである。夜間想定外の訓練や近隣にも協力要請の声かけを行い改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、管理者が記入し職員に目を通してもらい意見を聞き作り上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族から職員の顔と名前が一致しないという意見が出て写真入りで紹介して改善した。家族の参加も多く意見も出されている。事業所からホームの現況報告、インフルエンザ対策、避難訓練実施の報告、介護報酬改定やジェネリック薬品等の説明を行い。出席者からの意見・要望を受け話し合いを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議時や家族等の来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えており、話しやすい雰囲気づくりに留意しながら、苦情や意見等聴くように努めている。管理者が苦情受付窓口になっており、行政機関の窓口も文書で明示している。出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。近隣の人達には散歩・買物時に挨拶や話をしており、花や野菜等頂くこともある。新年会やどんど焼き、お祭りや葬儀・道路清掃に参加している。ホームの避難訓練には地域住民が参加してくれる等で日頃から地域住民との交流に努めている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割を職員全員で確認し、法人理念を基に事業所独自の理念を掲げている。利用者一人ひとりの自由な生活を意識した理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年に2回職員が自己評価を行いその中で理念の共有に努めている。法人代表者と個人面接を行っていて理念の確認の機会がある。管理者はサービスの提供時に迷うときには理念を振り返り、理念に添ったサービス提供に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。伊香保町民運動会に利用者と一緒に参加している。伊香保祭り時には祭り支度をしたお隣の子どもが利用者に見せに来てくれるなど地域とのお付き合いを大事にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は管理者が記入し、職員に目を通してもらい意見を聞き作り上げた。外部評価の結果については、職員会議等で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日は参加しやすいように工夫されているが、定期的な開催と行政の毎回の参加がない。地域との交流が難しい場面もあったが、メンバーの民生委員のとりなしで今では交流も盛んになり、会議が活かされた。事業所からサービスの状況や評価への取り組み・結果等についての報告を行い、家族が気軽に参加してくれて、意見も出され、ホームは意見を受けて改善している。	○	行政への働きかけを続けながら毎回の出席を願うと共に、定期的な開催を行ってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは申請代行の手続きや書類の提出に出向き、情報を事業全体の運営に活かしている。キャラバンメイトの協力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いは現金でお願いしている。家族等の来訪時には健康状態や暮らしぶり等を記入した「近況報告書」「個人カレンダー」を渡している。また、個人日誌の閲覧をしてもらえように声をかけ見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、気軽に話しやすい雰囲気づくりに努め、苦情や意見等聴くようにしている。面会時には「介護日誌」を閲覧してもらい意見を求め、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は管理者の退職があったために、法人内の別のグループホームから新管理者が異動になった。新管理者は利用者と馴染みの関係に早くなれるように努力している。また、職員との関係も大事にしている。入職した場合は法人の新入職員研修に参加させている。先輩職員が指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の他に、外部研修では群馬認知症アカデミーの発表会や地域密着型連絡協議会の交換研修・事例発表会への参加をしている。職員とパートに研修参加の機会があり、ケアの平準化にも繋がっている。研修参加後は様式に基づいた報告を行ない共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人のグループホームとの交流がある。地域密着型連絡協議会のレベルアップ研修や交換研修を通して同業者との交流を図っている。地域密着型連絡協議会のスタッフとしても協力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には本人・家族にホームの雰囲気や様子等を見ていただくために見学に来てもらい理念を話したりしながら事前に交流を持ち家族の不安を取り除く。入居後は本人がどのように納得しているか話し合い、外出に付き合ったり、本人の話をよく聴くように努め、家族には日ごろの様子をマメに電話等で知らせ連携をとりながら環境に馴染めるよう工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活しながら、人生の先輩であるという気持ちを感じている。たとえば、うどん打ちの時は利用者が見かねて手伝ってくれたり、おやつの自分の分を職員に分けてくれたりと心使いに感謝している。縫い物が得意な人やお習字を書িয়েくれたり、方言も教えてもらっているなど、お互いに助け合う関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を聞き利用者の精神面を察知したり、言葉を表出できない人からは顔の表情・普段の行動等で思いを把握している。利用者の日常生活にアンテナを張り巡らして要望・希望を示すサインを察知するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からの聞き取りと家族の意向を聴き、モニタリングを参考に、職員が記録した個人別介護日誌を反映させて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画の見直しは約3ヶ月に1度と状態の変化に応じてその都度早めに現状に即した新たな介護計画を作成し、家族の確認をもらっている。月に一度のモニタリングがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の代わりに代行申請を行ったり緊急時の受診支援や家に帰る(里帰り)支援・個別の買物支援を柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等に協力医の説明をし、希望を受けている。月に2回の協力医の往診がある。訪問歯科や訪問看護の支援もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化に関する指針の同意書を交わしている。今年度、協力医、訪問看護、家族の支援で最後の段階までホームにいらした利用者がいた。法人のバックアップもあり、全員で方針を共有できた。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時には、個人情報の取り扱いに関する誓約書を取り交わしている。個別の記録はホールにある戸棚に契約書は引き出しに収納している。記録にはイニシャルで表記し、排泄時の声かけに注意し、入浴時は個別対応が基本である等の一人ひとりの尊厳を大切にした支援を行うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの持っている特技を活かして、うどん打ち・縫い物・掃除等のお手伝いをしてもらっている。一人ひとりのペースや体調を大切にしながら、本人の希望に沿って自由に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配業者を利用している。食事は職員と利用者が一緒に作り一緒に食べている。食事の下ごしらえやりんごの皮むき等の一連の作業を手伝ってもらっている。家族と外食に出かける利用者もいる。近くのホテルでのクリスマス会が恒例となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と入浴時間の設定はあるが、希望があれば設定日以外でも入浴している。体調により手浴・足浴・シャワー浴・清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下ごしらえ、おしほりたみ・お盆拭き・家事・掃除・下膳・挨拶等の役割を持ち継続できるよう支援している。楽しみごとには、家族も一緒にイチゴ狩り・町民運動会の観戦・毎年恒例のクリスマス会・誕生日会・昔の話・民謡を聞いたり・散歩やお花の世話がある。気晴らしにはサンルームでのおしゃべり・鉢植えの世話等で張りのある毎日が送れる様に支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのテーマを『外』と掲げていて何しろ外に出ようと心掛けている。個別の買物支援や散歩、ホームの買物も一緒に行ったり。「毎日行こうと思っている散歩」等で日常的な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・全ての職員は、鍵をかけることへの弊害を理解しており、開設以来、職員の見守りの中で安全面に配慮しながら、日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難誘導訓練を実施している。1回は消防署立会い訓練を行っている。連絡網を作成し、近隣の住民も参加している。家族の協力もある。夜間を想定も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録がある。水分は1000cc以上摂取できるように支援している。利用者の嫌いなものや主食の米からパン・麺類等への変更など楽しい食事を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には手作りカレンダーや絵が飾られている。ホールにはテレビ・テーブル・椅子・カレンダー・サンルームがあり、冬には暖かな日差しが入るように設えてある。サンルームからは庭木の花や盆栽、小鳥のさえずりを聴く等季節感を味わうことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド・テーブル・テレビ・時計・整理ダンス・机・椅子・衣装がけ等の馴染みのあるものや大切なものが持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう配慮がなされていた。		